

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月15日

【評価実施概要】

事業所番号	0770403103		
法人名	社会福祉法人ハートフルなこそ		
事業所名	グループホームわいの家		
所在地	福島県いわき市植田町小名田13番の2 (電話) 0246-63-1711		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	H20.2.7	評価確定日	平成20年3月27日

【情報提供票より】(20年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤16人, 非常勤 2人, 常勤換算15人	

(2) 建物概要

建物構造	木造合金鋼板平屋 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(1月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性 2 名	女性 15 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	5 名
要介護5	2 名	要支援2	
年齢	平均 85 歳	最低 56 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中村病院、幸島病院、佐藤歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所は、常磐高速道湯本・勿来インターのほぼ間に位置し、JR植田駅から徒歩での行き来できるところにあり交通の便がよく、住宅街の中にある。建物は外観内装とも和風で落ち着いた趣がある。近くには県立高校が2カ所、保育園やグループホームがあり交流も多様であり、住民やボランティアの出入りも多く、事業所でボランティア主催によるフリーマーケットも開かれ年間を通して変化があり、楽しさが感じられる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 理念を明示している。契約書・重要事項説明書には利用者の権利・義務は当然含まれていると考えている。家具等は自由に持ち込まれている。会議は月に1回から2回は行われている。栄養面も栄養士の助言を受け、市内のグループホームスタッフ研修も受講している。個別に定期診察を受けている。会議の際に研修報告を行い情報共有している。薬品等は適切に管理している。金銭収支報告は密に行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は、全員で自己評価に取り組んでいる。自分たちでは気づかない、良い点、足りない点を認識できるよい機会を捉えており、この機会をさらなるサービス向上に向けて、生活支援、サービス提供に役立てることができるものと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) 会議は2ヶ月に1回行われ、メンバーは行政、自治会、民生委員、高等学校、保育園、家族等及び利用者で構成され、防災対策、サービス内容、事業所の取り組み等について報告、意見交換を行っている。メンバー構成からも地域との繋がり関わりが良いものと理解できる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 事業所への申し出は、家族では直接であるとなかなか出しにくい面もあり、協力的な家族が家族の代表として、全家族にアンケートを実施集約することで、家族等の意見、苦情、不安を間接的に事業所に伝えている。ほとんど意見等はないもののその把握に努め、常に運営に反映できるようにしている。また、日頃から家族等とは会話を密にすることで情報把握に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域住民が気軽に事業所を訪れるほか、自治会に加入し、回覧板の案内で地域の催事にも参加している。近くの公園の清掃にも参加している。また、近くの高等学校、保育園との交流もある。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者のこれまでの人生を把握」「家庭の雰囲気」「地域福祉を積極的に支援」「職員教育による資質向上」「利用者の健康で安全な生活」を基本方針に掲げ事業所の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は日常の会話の中で理念を共有している。理念を柱として毎年度のチーム目標を立て、それを半期ごとに見直し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板の案内で地域の催事にも参加している。近くの公園の清掃にも参加している。また、近くの高等学校、保育園との交流もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価結果には職員全員が目を通し、自分達で気づかない良い点、足りない点を認識できる機会と捉えている。評価をきっかけに「環境、料理、畑、イベント」の委員会を設けサービスの向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回行われ、メンバーに高等学校及び保育所が入り行事等案内があり交流が活発である。会議を通して地域住民の事業所への意識が高まり、地域行事では特等席が用意されるなど、地域との繋がりができている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態、金銭管理については、電話及び面会時など報告を密にしている。職員の異動については面会時に紹介するほか、特に報告していない。	○	職員の異動についても、工夫して家族に報告されるよう期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等とは日頃から会話が十分できている。家族の代表(協力者)により、全家族にアンケートを実施集約して、意見等を把握し、運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動はあるが、職員育成及び技術向上の一環で結果的に利用者のためと考えている。特に大幅な異動や離職はない。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員詰所には、資格試験等のポスターが貼られ職員に情報を伝えてなど意識啓発がされている。職員が試験を受ける場合など前日から勤務調整を行うなど配慮もできている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しているほか、各種研修にも積極的に参加している。また、管理者が他のグループホームから招かれ講義を行うことがあり、地域のグループホームの資質向上にも貢献している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の用意片付けやゴミ集めなど利用者の手伝ってくれる姿勢を尊重して、利用者の動きに合わせてながら、物事に一緒に取り組んでいる。夜眠れない方の側で入眠まで付き添い、本人の希望により職員が法事などにも付き添うことがある。通院はほとんど職員が付き添っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	入所までの生活状況をライフサービスプランに書き留め、言動で記録するほか、外出外泊時の会話を家族から聞き、本人の思いや意向を把握して生活支援に反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	家族とは面会時など話し合いを密にし、職員は管理者等に生活状況で観察されたこと、どう対応すべきかを提案し、話し合い、介護計画及び生活支援に反映させている。また、必要に応じて家族も話し合いに入ることがある。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	定期での見直しは最大6ヶ月、概ね3ヶ月で行っている。状況に変化がある場合はその都度見直しを行うほか、変化がなくても月1回は介護計画の確認をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)</p>			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師の選択は、本人及び家族等に任せており、一部入所前のかかりつけ医の継続している、受診の付き添い、受診及び受診結果をその都度家族に報告している。提携病院以外の医師でも連絡を密にし、事業所も理解を得られている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	どの主治医とも、連携できており、本人及び家族等の関係者で重度化や終末期についての方針が共有されている。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	生活全般でプライバシーに配慮し、話し方にも気をつけており、記録等は利用者の前には行わないようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が気持ちいいように、その人らしさを失わないよう本人のペースに合わせて支援している。例えば、要求されたときはその仕事を後回しにするか、他職員に任せ、すぐに対応するようにしている。そのためにも職員同士の声掛けを大切にすることで希望に添えるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者もできることは職員と一緒に準備片付けに取り組み、食事内容も個々の希望を聞いて提供し、本人にあったテーブルやこたつで食事を摂り、会話があって和やかな雰囲気である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中の中の入浴希望はなく、夕方に集中しているため遅番職員2名で利用者の希望に添えるようにしている。また、家族等の面会宿泊時には本人と一緒に入浴してもらうことを可能とし、入浴を楽しんでもらえるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	食事の準備片付け等利用者が自分でできることは見守り、地域の行事、風物を楽しめるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	名跡や温泉足湯へのドライブ、季節行事への参加など遊べる雰囲気がある。また、その日本人の自宅へ行き、畑を気にしたため家族の承諾を得て本人と職員が作業に取り組んだり、本人の友人宅を訪問することがある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	9時から17時は鍵を掛けることはなく、必要な場所には鈴を取り付け、一見インテリアにも受け取れ違和感もなく工夫されている。職員も音に注意している。無断外出傾向の方の居室には家族の同意にて防犯用ロックを使用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月防災訓練を行い年1回は消防署が入る。自治会役員とホットラインが開設されており、事業所と地域住民の繋がりがある。また、職員は連絡網によりいつ何時でも事業所に駆けつける体制ができている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び摂取状況を観察している。適切に主食を変更するなど本人に合わせた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、食堂は季節の飾り付けや、利用者が取り組んだ物が置かれ、落ち着いた雰囲気になっている。トイレや浴室は安全に使えるようになっている。年間を通して湿度や温度も記録され留意されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具はなく、本人の生活歴、家族の意向を尊重して、物品が持ち込まれ、安心して生活できるよう居室内の配置がされている。		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名	グループホーム わいの家
記入担当者名	櫛田 優子

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。